



正和会グループ 年頭神事



正和会グループでは、令和8年1月5日、年頭にあたり年頭神事を執り行いました。当日は、各事業所の代表者が参列し、神主による祝詞奏上ならびに玉串奉奠を通して、各事業所・事業グループのさらなる発展と、正和会で働く職員一人ひとりが一年を通じて健康かつ安全に過ごせるよう祈願いたしました。

また、神事後には理事長より新年の抱負が述べられ、新たな一年に向けた法人運営への想いや、今後の取り組みについての考えが共有されました。

年頭神事は、新たな一年の始まりにあたり、心を新たにし、法人としての想いをひとつにする大切な節目の行事です。

本年も初心を忘れることなく、地域および患者・利用者の皆さまから信頼される法人であり続けられるよう、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。

本年が、皆さんにとって健やかで実り多い一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

多様なデジタルツールにより、職員の業務負担軽減と効率化
ケアの質向上と働きやすい職場づくりの両立を目指して

社会医療法人正和会

統括事務長

かとう としき
加藤 稔樹 さん

社会医療法人正和会

→
(外部サイトに移動)

統括事務長 加藤 稔樹 さん(右)
介護科 科長 佐藤 壮 さん(左)



介護老人保健施設 ほのぼの苑 の取り組みが

「AKITA DeX」でデジタル化・DXの好事例として紹介されました

このたび、介護老人保健施設 ほのぼの苑 の取り組みが、秋田県が運営するデジタル推進ポータルサイト「AKITA DeX（アキタデックス）」の事例紹介ページで取り上げられました。

ほのぼの苑では、職員の業務負担軽減と業務効率化を目指し、介護記録システムや音声入力ソフト、骨伝導インカム、見守りセンサー等のデジタルツールを積極的に導入しています。

これにより、情報共有の迅速化、業務時間の短縮、ケア品質の向上など、現場の負担軽減とサービス向上を両立する仕組みが実現されています。

今回の掲載は、地域医療・介護現場でのデジタル技術活用が具体的な成果を生み出している好事例として、秋田県内外の多くの事業者に向けて発信されたものです。

今後も継続的な取組みを通じて、より良い地域医療・福祉環境の実現を目指してまいります。

AKITA DeX
(アキタデックス)



秋田市・大潟村と 福祉避難所協定を締結しました

正和会グループでは、災害時において支援が必要な方々が安心して過ごせる環境を確保するため、各自治体と「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」を締結しています。

令和7年11月19日には、秋田市と協定を締結し、社会医療法人正和会および社会福祉法人正和会の計7事業所が、福祉避難所としての役割を担うこととなりました。

また、令和7年12月23日には、社会福祉法人正和会が大潟村と協定を締結し、村内3事業所が福祉避難所として指定されました。

福祉避難所は、高齢者や障がいのある方、医療的な配慮が必要な方など、一般の避難所での生活が難しい方々を対象とした避難施設です。

正和会グループでは、日頃から培ってきた医療・介護・福祉の専門性を生かし、災害時においても地域の皆さまの安全と安心を支えられる体制づくりに取り組んでまいります。

今後も自治体や地域との連携を大切にしながら、万が一の災害に備え、職員一同、役割と責任を果たしてまいります。



認知症カフェへの取り組みますか



認知症カフェって どんなところ？

認知症カフェは、認知症の人やその家族、地域の住民、医療・介護の専門職などが気軽に集まって交流や情報共有ができる場のことです。認知症の人とその家族、地域住民による交流を通じて、認知症への理解を深め、認知症の人が地域で安心して暮らせる環境づくりを目指しています。

まめだすカフェの 開催にあたって

歳を重ねれば、誰でも自然の流れで「もの忘れ」等が出てくるものです。そのことから、認知症は身近なものであり、「人ごとではなく、自分ごととして考えて欲しい」の願いが込められています。

まめだすカフェは、地域の方々や認知症の方々どなたでも参加ができ、一緒に楽しむことができる集いの場です。お茶を



オレンジシフォンケーキ
(まめだすか職員作)

しながら楽しい時間を過ごす、仲間を増やす、認知症の理解ができるメリットがあります。

また、地域の中には、交流が無く過ごされている方もいらっしゃると思います。

カフェを通して、楽しみごとの一つになれば、MCI（軽度認知障害）の予防・回復にも繋がります。

「まめでらがく（元気でいましたか）」を合言葉に、参加された方が、楽しい刺激を持ち帰って頂けるよう、カフェを盛り上げていきたいと思っています。